

改訂の方向性(案)

モニター調査結果や現地調査結果、ならびに第1回・第2回検討会での御意見等を踏まえ、現段階における取りまとめの方向性を以下整理した。その上で、今回の改訂案(資料3)を作成している。

1. 食文化ナビについて

【調査結果】

- 食文化ナビの有用性
 - ・「地域の課題発見に役立つ」、「議論の活性化に役立つ」が約7割。
 - 「汎用性がある」半数弱



【改訂の方向性】

- 食文化ナビの有用性
 - ・現場での有用性が確認されたため、改訂は、見易さ・使い易さに重点を置いたものとする

- 活用したい時期
 - ・「事業を始める前」が約6割。その後も、各段階で使いたいとの声も



- 活用したい時期
 - ・汎用性を保ちつつも、メインユーザーを「事業取組の初期段階」の地域を想定し、表現等を見直す
 - ・取組が進んでいる地域が使う際の活用イメージも「ダイジェスト版の使い方」に盛り込む

2. ユーザビリティ(使用感)

【調査結果】

- 冊子(ダイジェスト版)のサイズ
 - ・サイズは「ちょうどよい」が半数、「もう少し大きい方がよい」も4割と少なくない
 - ※冊子の大きさよりも文字の大きさが気になるとの意見あり



【改訂の方向性】

- 冊子のサイズ
 - ・現場での使い易さも踏まえ、現状のサイズを維持

- 1ページあたりの情報量
 - ・4人にひとり、「情報量を減らして見やすく」と回答。また文字が小さくて読みづらいとの意見も



- 1ページあたりの情報量
 - ・特にワークシートを中心に、1ページあたりの情報量を減らし、読みやすくする
 - ・ページ数を増やす方向
 - ・文字サイズ等も要検討

- デザインについて
 - ・「8ページ以降、急に事務的デザインになり活用意欲が減退」「写真などの絵があるとイメージしやすい」との意見も



- デザインについて
 - ・活用者を引きつけるナビとすべく、デザインを検討
 - ・その際、ダイジェスト版と本体の統一感も意識

3. 全体構成および「導入～解説部分(P1～8)」について

【調査結果】

●構成について

- ・「現状のままでよい」が8割近くと、おおむね現在の構成が評価されている

●項目の追加について①

- ・食文化ナビの利用目的やダイジェスト版の使い方がわかりにくいとの声が、現地調査・モニター調査を通じて聞かれる

●項目の追加について②

- ・「最後に地域の事例集があれば参考にしやすい」「他事例を自分の地域に置き換えることでアイデアが生まれることもある」との声も
- ・現地調査でも、取組の横展開を視野に入れた情報が求められた

●視点0～5の見出しについて

- ・「視点3」を筆頭に「視点1」「視点2」は、見出しから内容をイメージしにくいとの意見が少なくない

●導入～解説のわかりやすさ

“わかりにくい表現や用語”として指摘が上がったもの

- ・クリエイティブデザイン
- ・イーティングデザイン
- ・ステークホルダー
- ・しつらい
- ・次世代の舌づくり
- ・食のプロセス

【改訂の方向性】

●構成について

- ・基本は現状の構成を維持

●項目の追加について①

- ・ダイジェスト版の使い方や各チェック項目の解説、ナビを使う意義などを記載(資料1参照)

●項目の追加について②

- ・「ナビ本体(book)」のヒントや事例の充実
- ・「ダイジェスト版」から本体へのレファレンス機能の強化

●視点0～5の見出しについて

- ・イーティングデザイン、クリエイティブデザイン、等の見出しについては検討課題
⇒サブタイトルの追加または代替案をご提案

●導入～解説のわかりやすさ

- ・わかりにくいとされた用語は、分かり易い言葉に置き換える方向でご提案

4. ワークシート(P9~P15)について

【調査結果】

- 視点0~5以外の視点の必要性
 - ・モニター調査より数か所から意見があったものの、「現行の視点に納まるもの」「項目の追加・修正が適切なもの」の範囲内



【改訂の方向性】

- 新たな視点の追加について
 - ・基本は現状0~5の視点に収まると考えられるため、大枠は維持
 - ※今後の現地調査の状況次第で見直しを検討

- 視点0
 - ・チェック1~4について、「記載しにくい箇所」および「追加・削除した方がよい項目」は、約8割が「なし」
 - ・食文化を技術という要素で捉える必要性もある



- 視点0
 - ・項目は現状を維持
 - ⇒チェック2の中に、発酵等の「文化技法」について言及する
 - * 技術についての表現は要検討

- 視点1
 - ・チェック5~9について、「記載しにくい箇所」ありが約4割
 - ・「追加・削除した方がよい項目」は、約8割が「なし」



- 視点1
 - ・チェック5(食材の由来)・6(地産地消)・7(在来品種の活用)の見直し
 - ⇒記入のヒントの見直し

- 視点2
 - ・チェック10~12について、「記載しにくい箇所」ありが約3割
 - ・「追加・削除した方がよい項目」は、約9割が「なし」



- 視点2
 - ・項目は現状を維持
 - ⇒表現が抽象的(＝クリエイティブデザイン等)という現場の声には、平易な表現や、イメージしやすい例の掲載で対応

- 視点3
 - ・チェック13~16について、「記載しにくい箇所」ありが約4割
 - ・「追加・削除した方がよい項目」は、約9割が「なし」



- 視点3
 - ・項目は現状を維持
 - ⇒平易な表現や、イメージしやすい例の掲載で対応
 - ※わかりにくいという声には、今後の現地調査からの例示など改訂に向けたヒントを模索

4. ワークシート(P9～P15)について

【調査結果】

●視点4

- ・チェック17～20について、「記載しにくい箇所」ありが約3割
- ※特に「海外」についての記載多数
- ・「追加・削除した方がよい項目」は、約9割が「なし」
- ・チェック18、20のヒントに該当する事例は、まだ少ない



【改訂の方向性】

●視点4

- ・ **チェック18、20の再検討**
⇒海外を意識したチェック項目は現行どおり2項目にする
⇒18、20については、1本化
⇒「海外を意識した工夫」として新たに「インバウンド」への対応を追加

●視点5

- ・チェック21～26について、「記載しにくい箇所」ありが約2割
- ・「追加・削除した方がよい項目」は、約9割が「なし」



●視点5

- ・ **基本は現在のまま**
- ・「誇り」「絆」「食する側の人づくり」など抽象的とされた言葉については、平易な表現も検討

●レーダーチャート

- ・「記入しにくい」が半数近くにもものぼる
- ・評価基準や評価数値への疑問、意見がみられる
- ・レーダーチャートへの記載の意義がわからないとの声



●レーダーチャート

- ・ **改善が必要**
⇒「評価」ではなく、あくまでも「気づき」のためのツールとする
⇒「何が不足しているか」よりも、あと「何ができるのか」を知るための意味を再確認